

熊本商業高等学校 令和4年度(2022年度)学校評価表

1 学校目標

県教育委員会関係課から出されている「令和4年度教育指導の重点及び取り組みの方向」を基本に、本校の校訓「礼節」・「剛健」及び「反省十訓」を踏まえ、徳・知・体の調和の取れた全人教育をめざすとともに、これまでの本校教育の伝統を継承し、教職員が一体となって、家庭や地域との連携のもと活力ある学校づくりをめざす。

2 本年度の目標

○豊かな人間性と健全な心身の育成

校訓である「礼節」・「剛健」を重んじ、他者を思いやる豊かな人権感覚を身に付けるとともに、校内外における集団生活のルールやマナーを体得した規範意識の高い生徒の育成に努める。

○学力の向上と進路指導の充実

確固とした進路目標を持ち、その実現のために自ら進んで学び学習する態度を育成し、学力向上に努めるとともに、個々に対応した進路指導の充実を図り、望ましい職業観や勤労観の育成に努める。

○地域社会の期待に応える特色ある学校づくり

特別活動を奨励し、部活動等に積極的に取り組む姿勢を育成し、学校の活性化に努めるとともに、学校周辺の環境清掃活動やボランティア活動に積極的に参加する姿勢の育成に努める。

○生徒を「伸ばす」教育活動の実践

熊本県の教職員像「認め、ほめ、励まし、伸ばす」にある「伸ばす」に力点を置き、教職員のスキルアップ、充実した学校組織の体制づくりを行い、教育活動の実践に努める。

【教育スローガン】

「日本一の商業高校へ ～志高く、怒と信頼の人づくり～」

3 自己総括表

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	学校の教育目標 日々の教育活動 (教育スローガン) の達成に努める。	運営委員会(衛生委員会)、各種行事において学校の諸活動の状況を確認する。	教科指導を中心に、生徒指導、進路指導等、学校の諸活動の工夫・改善を図り、教育目標を達成する。	各分掌が掲げる具体的目標の達成に向けた取り組み状況を確認し、必要に応じて指導助言を行う。	A	本校の学校経営方針の一つである、生徒を「伸ばす」教育活動の実践が、各分掌で推進されている。また、生徒の学習面や生活指導面の現状分析(アンケート調査)をすることで課題を明確にし、取組の方向性を職員間で共通理解を図っている。
		「志」を高く持ち、他を思いやる「怒」の心と人と人をつなぐ「信頼」の心を持つ人材を育成する。	特別活動、部活動を含めた教育活動の全ての領域で「日本一の商業高校」の実現を図る。	規範意識の醸成と心の教育の推進を図るため、挨拶運動の徹底と怒の精神を涵養する。	A	生徒の自己肯定感を高めることや怒の心の育成を図るため、挨拶の徹底、心の教育等、職員一丸となった教育活動が推進できている。特に生徒の校門一礼や挨拶の励行は、来校者から高い評価を受けている。学年集会やオンライン配信による全体指導、また、ストレス対処教育等を通じて心の教育の推進を継続している。
	熊本県の商業高校の拠点校としての指導的役割を果たす。	全領域で学校活性化に向けた取組や組織の検証を行い、改善を図る。	キャリア教育の充実と商業高校としての専門性の深化を図る。学科のあり方や本年度より学年進行で始まった新教育課程の検証に取り組む。	将来のスペシャリストの育成を図り、進路目標(就職・進学)達成に向けた指導の改善・充実に積極的に取り組む。	A	商業高校の拠点校としてコロナ禍におけるWebの活用方法について、各学校に情報を発信、教材の提供など拠点校としての役割を果たした。また、高校生の到達目標を超えた資格取得指導を通じてスペシャリストの育成ができた。
業務改善、働き方改革の視点から校務分掌、学校行事等を見直す。	・職員に業務の効率化を意識させる。 ・職員に勤務時間・健康管理を意識した働き方を意識させる。	・行事の2週間前までには学年連絡会に提案できるように促し、各分掌の業務の効率化を図る。 ・部活動指導による時間外勤務の削減。	・各分掌間の連携 ・ファイル名のコード化 ・行事の精選 ・部活動指導の交代制を促進 ・部活動方針の周知と遵守	B	会議の回数削減や時間短縮、積極的なICTの活用に取り組む業務の効率化を図ることができた。特に行事においてのオンライン配信やフォーム等を活用したアンケートは有効であった。毎月の衛生委員会を通じて超過勤務の先生方をリストアップし、保健指導につなげるなど勤務時間の削減をできるように工夫した。部活動の大会直前の勤務時間超過の改善が課題である。	

	学校・保護者・地域社会等の連携とその充実を図る。	創立127年目を迎え、教育目標達成のための思いを新たに、学校の教育活動全般について更に情報発信するとともに、保護者・地域社会の理解と協力を得て、学校の活性化に繋げる。	様々な情報手段を活用して、学校の活動を積極的に発信していくとともに、学校教育及び商業教育の活性化の方策を探る。	HPの更新、報道機関への資料提供、学校安心安全メール等での情報提供を促進する。また、育友会とのより良い協力態勢づくりに努める。	A	学校行事や生徒の活躍等の情報をHP・広報紙を通じて発信した。学校安心・安全メールを活用して保護者との連携を図ることができた。熊商デパートや商品開発を通じた地域連携、各教科における高大・高専・高幼連携をするなど、商業教育の高度化と教育の活性化を図った。学校行事については、コロナ対策を講じながら実施するなど、育友会・地域の方々にご支援をいただき、本校教育についてご理解いただく良い機会となった。
学力向上	学力の充実を図る。	各人の学習目標を明確にさせ、予習復習の徹底を図り、家庭学習時間の確保を促す。	学習意欲を高め、学習の習慣化を図り、達成感を持つことができるよう促す。	定期的な生活時間活用調査を実施し、時間の大切さを自覚させると同時に有効かつ効果的な学習方法を身に付けさせる。	B	定期的な生活時間活用調査を実施することはできなかったが、各教科ではタブレットによる課題の提出を行った結果、提出率の向上とともに、家庭学習の確保につながった。
		「黙学」の有効活用を図る。	1日のスタートにふさわしい、ゆとりある学校生活を送れるように心身を落ち着かせるとともに、基礎学力の定着を図る。	8:35までに入室・着席し、適切な課題(国数英の基礎学力強化、検定対策等)を課すとともに、着席指導を行うことで、主体的に学習する意欲を高める。	A	生徒は主体的に課題に取り組み、教員は生徒の登校状況を把握するという、落ち着いた態度で1日を迎えるのに効果的だった。ただし、タブレット端末を使用するにはWi-Fi環境等の課題がある。
	授業内容の充実を図る。	言語活動の充実を進めながら、生徒の学習意欲を高める授業を実施する。	公開授業を軸に教科内・外の研修を深める。特に、教科会を充実させ、担当者間の連携・連絡を密にし、思考力・判断力・表現力を高める授業の工夫・改善に努める。また、タブレットを活用した授業を多く取り入れ、教師の授業準備の効率化を図るとともに、生徒が主体的・協働的に取り組む授業を確立する。	分かる授業確立のため、学期1回以上の研究授業体制を整備し、各教科年間3回以上の研究授業を実施。更に教科の垣根を超えた公開授業を実施し、主体的かつ対話的な深い学び等の教授方法を研究する。タブレットを活用した授業実践の職員研修を実施し、教師間に差が出ないよう情報交換を行い、共通理解を図る。	A	ICTを活用した授業が積極的に行われ、生徒の主体性を重視した深い学びを実践することができた。授業評価については、教科に温度差がないよう、ICT支援員と協力して、研修を実施した。また、コロナ禍におけるオンライン授業を実施し、生徒の学習への不安がないように配慮した。
キャリア教育(進路指導)	キャリア教育の視点に立った基礎的・汎用的能力を育成する。	生徒に進路決定と将来の目標を見出させる指導を行う。	生徒一人一人が社会における自己の役割を認識し、自己の能力や適性、可能性に気づき、生涯の人生を見通した中で進路について考えるよう促す。	進路LHRや集団進路指導において、社会の情勢や人間としての在り方・生き方を踏まえた幅広い情報を提供し、自己の将来像を見通して、逆算的に進路について考えるよう啓発に努める。	A	各学年でテーマを設け、「進路LHR」や「集団進路指導」等を実施し、効果的な進路意識の高揚や情報提供を実施できた。進路学習後に、自己を見つめ将来について真剣に考える態度を持続できるよう、進路ノート等のさらなる活用など、日常の支援も今後充実させたい。
		学習をはじめとする諸活動の「意味」を、将来とのつながりの中で理解させる指導を行う。	各教科をはじめ教育活動全体を通して、知識や経験の汎用性を実感できるような指導に努める。	生涯に渡る生活で、今の学びがどのように生きてくるのかを意識した授業展開・活動づくりに努めるとともに、教師一人一人が人間としての在り方生き方を踏まえた学習活動の意味を丁寧に語り、伝える。卒業生を囲む会や合格者体験談を聴く会を通して、学びの継続性や将来の可能性について啓発を図る。	A	社会の課題に自らがどのようにかわり、社会参加や自己実現を果たしていくかを念頭に置いた教育活動を展開できた。進路ガイダンス、卒業生を囲む会等は、生徒の学ぶ意欲を刺激し、自己の進路を深く考える良い機会となった。今後も進路行事を精選しながら、よりよい取組を実施していきたい。

	生徒一人一人の進路実現を支援する。	生徒の能力・適性を把握した適切な支援により、進路目標の実現を図る。	生徒一人一人の進路決定までの過程を大切に、就職・進学ともに考えさせる指導を工夫する。 ① 就職内定率100%を達成する。 ② 国公立大学合格者20名以上を目標の核とし、大学進学者数を100名以上にする。	「面談力」を高め、生徒が目標を高く持ち、自己の可能性を切り拓くため、意欲的に進路決定に取り組むように導く。 ・生徒一人一人の悩みや疑問に丁寧に対応し、必要な情報提供や支援を行う。 ・各試験対策として進学課外、就職課外、公務員課外を実施する。	A	キャリアサポーターとの連携による企業情報の提供、面談、全職員による面接指導等丁寧な指導した結果、就職内定率100%を達成した。また、全職員による小論文研修会の受講及び指導、受験科目に対応した課外やきめ細かな個別指導により、大学進学者も目標値をほぼ達成した。今後、さらに多様化する入試形態への対応が必要である。
生徒指導	外面的生徒指導の充実を図る。	規範意識の高揚を図る。	・時間厳守を徹底する。 ・校則を遵守する。 ・情報モラル教育の充実を図る。	・黙学と運動させながら、遅刻者数の減少を図る。 ・整容検査を適宜実施し、違反者減に努める。 ・携帯電話のマナーや適切な使用方法について、学期に1回全体指導を行う。	A	熊商生としての自覚の上に順法精神を身に付けることができた。携帯電話の使用については、企画した全体指導に加えて、全職員による時機を見た指導を行っているが、一層のマナー・モラル指導が必要である。
		個に応じた多様な指導支援に努める。	・配慮を要する生徒の確実な把握。	・係職員及び交通委員による安全点検、校外指導を行う。	B	命を守るために重点的に指導を継続したが、負傷を伴う事故が発生した。交通安全については、多面的に意識の高揚を図りたい。
	交通安全並びに自転車の盗難防止に努める。	・自転車運転マナーを徹底する。 ・自転車の二重ロックを徹底する。	・係職員及び交通委員による安全点検、校外指導を行う。	B	命を守るために重点的に指導を継続したが、負傷を伴う事故が発生した。交通安全については、多面的に意識の高揚を図りたい。	
	内面的生徒指導の充実を図る。	不登校・問題行動を起こす生徒への適切な対応に努める。	・不登校や問題行動の兆候を見逃さず早期把握に努め、学年をはじめ、教育相談部・保健部及びスクール・カウンセラーと連携を図る。 ・職員全体の共通理解のもと適切な指導を行う。 ・「命を大切に作る心」を育む指導プログラムの取組を通して、命の大切さを常に意識した判断や行動ができる生徒の育成を図る。	・マナー・モラル教育を実施する。 ・全校集会時において、思いやりの心がいかにか大切であるかを生徒に訴えかけ、心の教育の充実を図る。 ・担任と生徒との二者面談を行い、生徒個々の内面を開き出す。 ・生徒会主催の「心のきずなを深める集会」を実施し、「怒」の心を育成する。 ・各教科、ホームルーム活動や全校集会、講演会、黙学等、組織的系統的に各取組を実施する。	A	相手を傷つける不適切な言動は、指導の成果で減少した。しかし、なにげない言葉に思い悩んだ生徒は少なくなかった。そのような生徒に担任は、教育相談部やスクールカウンセラーと協力して該当生徒の心の健康回復に努めた。さらに、人権教育とも連携して、学級ごとに努力目標を掲げて人権意識の高揚にも努めた。
	校門一礼を促し、さらに愛校心を育てる。	・風紀委員と連携を図り、自然な一礼の雰囲気づくりを行い、100%を目指す。	・毎月10日に調査を行い、全校生徒に発信していく。 ・育友会との連携を図る。	B	校門一礼を実践している生徒とそうでない生徒の二極化が見られる。生徒の愛校心や、感謝の心を育むために、大切に指導を継続したい。	
人権教育の推進	生徒も教師も「差別やいじめを許さない、見過ごさない」人権感覚の向上を図り、人権を尊重する学校づくりを目指す。	生徒人権委員会の活動を活性化させるとともに、人権同和教育推進委員会の機能を活性化させ、学校総体で人権教育に取り組む。	・不合理な差別に気付き、指摘する力をつける。 ・生徒同士、職員間における仲間づくりを推進し、学校における差別事象をゼロにする。	・啓発活動(朝の放送、生徒人権委員会、人権・同和教育推進委員会、掲示板、資料提供など)を継続的に行う。 ・特に職員の言葉かけのスキルを高める。	B	「心のきずなを深める月間」において生徒全員の標語の作成、クラス標語の選出、校内掲示することでなかまづくり意識を啓発することができた。文化発表会で人権委員会がいじめ防止について発表した。教師の言葉かけの啓発はできなかった。
	人権教育を計画的に行うとともに、進路の保障に努める。	3年間を通した人権教育を展開する。授業の創造(分かりやすい授業づくり)に各教科で取り組む。	・身近な人権課題への認識と過去の差別の現実深く学ぶ。 ・言語教育とコミュニケーションを中心とした、生徒が楽しく学ぶ環境をつくる。	・被差別当事者の方の話を聴き、その方の思いに寄り添うことができるようにする。 ・研修会の開催・参加を図るとともに、資料提供による知識の更新や蓄積を図る。	A	1年生は当事者の方々から話を聞き、深い学びにつながった。研修会等が通常通りに開催されることが多くなり、参加者が昨年より増えた。多くの職員が参加するようになるが、多忙化と折り合いをつけていくことが難しい。

	命を大切にする心を育む指導	3年間の人権教育を通して講師の方の生き方やさまざまな人権課題から差別とたたかう人間の素晴らしさや個々の尊厳を学ぶ	・当事者の話を聞きことや教材等から学ぶことで人権課題に関わる人々の生き方の尊厳を学ぶ。 ・他者を思いやり、自己の尊厳も大切にする心を育む。	・効果的な人権教育を企画、実行する ・生徒感想、職員感想を集約し、より効果的な方策を検討する	B	通常通り、講師の話を対面で聴くことができた。部落差別が身近なものと感じにくくなっていて、さらなる改善の必要がある。
いじめの防止等	いじめを許さない学校づくりといじめを「しない」「させない」生徒の育成を図る。	いじめの早期発見に努めると共に、お互いを思いやり、自他の生命を大切にする心を育てる。	・いじめの兆候を見逃さず、定期的なアンケートや個別面談等を通して、早期把握に努め、学年、教育相談部、保健部等と連携し組織的な対応を行う。 ・家庭との連携を深める。	・本校で定めた「いじめ防止基本方針(改訂版)」に基づき組織的に対応する。	B	アンケート調査、面談週間を計画的に実施し、全職員で生徒を見守り、いじめを見逃さないように取組んでいる。いじめ防止対策委員会等において情報共有ができ、職員間でも連携を図りながら迅速な対応ができている。更にスクールカウンセラーや専門家の助言を頂きながら指導していきたい。
		いじめ防止等の年間計画に基づいた取組を実施する。	いじめのない学校づくりに生徒の主体的な参画を促す。	生徒会による「いじめをなくす」ための校内放送等を活用し、生徒たち自身が話し合い、意見を出し合う中で、いじめを無くす集団を育てる。	C	新型コロナウイルス感染症拡大のために学校行事が制限される中で、全校集会時等の生徒の主体的な活動ができにくかった。いじめ撲滅の意識を高揚させる取り組みを継続していきたい。
	いじめだけではなく、深刻な悩みや課題を抱えている生徒の支援を目指す。	気になる生徒の早期発見に努めるとともに、生徒自身がお互いを思いやる「恕」の心を育てる。	学年部と保健部・教育相談部との連携を強化することで、兆候を見逃さず、職員の共通理解のもと適切に対応する。	教育相談部会において、気になる生徒への指導並びに支援体制について、運営委員会(学年連絡会)を通して周知することで、組織的な対応を図る。	B	保健室(保健部)、教育相談部、学年部、及びスクールカウンセラーとの連絡体制が円滑に機能し情報共有ができた。課題を抱えている生徒への対応を継続している。
地域連携(コミュニティ・スクールなど)	防災教育の推進と地域連携豊かな人間性と健全な心身の育成を図る。	熊本地震を教訓に防災教育の充実に学校総体として取り組む。本校の伝統を継承しながら、保護者や地域住民の意見を学校運営に反映させ、地域とともにある学校づくりを推進する。	・想定外の災害に対しても冷静かつ安全に行動する姿勢を身に付ける。 ・「学校運営協議会」において、具体的な取組等の研究を進める。 ・学校行事として実施する、販売実習を充実させる。 ・地域の商店街の活性化を題材とした研究を進める。 ・幼稚園実習の内容を充実させる。 ・「避難所協力」において、熊本県、熊本市、地域の自治会との連携する。	・年3回の避難訓練の実施 ・熊商危機管理マニュアルの更新 ・水前寺公園商店街の活性化について地域の連携を深める。 ・神水幼稚園における実習について、連携を深めることにより充実を図る。 ・校内組織編成による避難所運営への協力体制の徹底を図る。	A	今年度も全体での避難を伴う訓練は実施できなかったが、昨年度の反省を生かし、年度当初に校内避難経路及び緊急時における連絡体制の周知を行い、異動後の先生方、入学後の1学年の生徒に対して対応できた。年3回の避難訓練についても「放送訓練(7月)」「実演訓練(10月)」「実演訓練(11月)」と形式を変えることで、昨年度よりも充実させることができた。熊本市との避難訓練は10月16日(日)に市役所・地域の自治会の方と連携して取り組むことができた。
商業教育の充実	商業の各分野における基礎的・基本的な知識と技術を習得させる。	ビジネスの理解力・実践力を評価する方法として、資格取得に向けた指導を強化する。	生徒が主体的に資格取得について目標を立てることができるよう導き、その達成を目指す。	・生徒個々の学力に応じた指導や授業内容の充実、改善、主体的かつ対話的な深い学び等を取り入れた魅力ある授業実践を図るため、担当者間の連携を深め、各学期に研究授業等を実施する。 ・Chrome Book等を活用し、生徒の基礎的・基本的な学力が確実に定着するよう指導する。	B	魅力ある授業実践、授業力向上の為、研究授業だけでなく、GIGAスクール構想に対応した活用研修を年間を通して計画的に行った。充足したITC機器を利活用し、商業教育における基礎的・基本的な知識と技術の習得を図るためにも職員側のスキルアップは急務である。生徒や保護者、企業からの要望が高い資格取得に向けても今後も引き続き取り組んでいく。

<p>ビジネスに対する望ましい心構えや理念を身に付け、ビジネスの諸活動を主体的・合理的かつ協働的に行う能力を育てる。</p>	<p>求められる3つの資質(人間関係能力・社会性・倫理観)を伸長する。</p>	<p>・授業で学んだ専門的知識・技術を試す実践の場を設け、総合的な人間力、資質の向上を図る。 ・体験的な学習を通してビジネスマナーを身に付けさせるとともに、定着指導に努める。</p>	<p>・販売実習である「熊商デパート」への取組みを通して、ビジネスに対する姿勢やコミュニケーション能力の育成を図る。また、今年度もデザイン思考で「コロナ禍における熊商デパート」として顧客満足の観点をもとに熊商デパートを演出する。 ・事前の指導や企業研修を通して、ビジネスマナーの必要性について理解させるなど、定着指導を行う。 ・情報モラルについても、情報処理の授業を中心に涵養を図る。</p>	<p>A</p>	<p>35回目を迎えた熊商デパートについては、感染対策に配慮しながら3年振りに一般公開を行った。ChromeBookも活用し、上級生から下級生へ接客マナー指導を行うなど、学年を超えた連携を図ることができた。事前事後の学習をとおし、体験的にビジネスに対する姿勢やマナーを深める良い機会となった。将来のビジネス社会を支える人材になるため、情報の取り扱いにも心配りができるよう継続的に取り組んでいきたい。</p>
	<p>ビジネスの諸活動を主体的、合理的かつ倫理観を持って行い、地域や経済社会の発展に寄与する能力と実践的な態度を育てる。</p>	<p>ビジネス活動に対するグローバルな視点や企画力・表現力を育成する。</p>	<p>・「課題研究」や「商品開発」、「電子商取引」などの学習を通して広い視野を育て、企画力・表現力の向上を図り、ビジネス諸活動の主体的構成者としての資質や能力を育成する。 ・高大連携プログラムやベンチャーマーケットなどを活用した専門性の深化により、将来のスペシャリストの育成を図る。</p>	<p>B</p>	<p>「課題研究」においては、今年度から新たにDXの視点や商品開発に知財学習の要素を取り入れ、情報発信力や企画力を高める機会となった。「商品開発」ではビジネスプラングランプリへの応募などで企画力・表現力を高めた。また、高大連携プログラムに参加し、より専門的な知識や実社会で求められている力を知る良い機会となった。今後も実践的・体験的な授業をとおし継続的な取組ができるよう組織的な対応を心がけたい。</p>

※評価A～Cについては、A・・・達成できた、B・・・概ね達成できている、C・・・課題が残る、を基準に評価した。

4 学校関係者評価

【学校経営】

- ・新型コロナウイルス感染予防をやりながら、努力目標を着実に向上させる為の努力は大変でしたでしょう。ほとんどの分野で立派な結果が得られておられ、先生方のご苦労を感じました。
- ・学校長の明確な経営方針のもと、各分掌で生徒を伸ばすための教育活動が実践されていることが伝わってきました。校門一例や挨拶などの社会性を身につけさせることを大切にされる貴校の取組みに感銘を受けました。
- ・生徒の自己肯定感を高めることは、生徒自身の伸びる力を支える大きな力となると思います。学力もそうですが人間性の育成にも重点をおかれているのがいいと思います。
- ・ねらいや方法が具体的で計画的であり、とてもすばらしいと思いました。参考になりました。
- ・教育目標にあわせて各部でそれぞれ指導等して下さっていることで安心して学校に送り出すことができます。
- ・「挨拶」は高い評価を受けているとありますが、熊商の学生の皆さんは抜群だと思います。大人になっても最も大切なことの一つでもありますので、教育を継続して頂きたいと思えます。また、先生方が働きやすい環境を整えることも大切で、それにより生徒の皆さんにも良い影響につながると思えます。
- ・学校評価アンケート結果によるこれからの対策を視野に入れ実行する生徒と職員の数値が縮小することを願います。

【学力向上】

- ・予習・復習はもちろんですが、ICTなどを有効に活用することで自宅での学習がスムーズに出来るのではないのでしょうか。
- ・時間を意識し自己管理できる資質を培うことが、大きな意味での学力向上のベースとなるということにとっても共感しました。またICTを活用した授業等の授業改善への取り組みで、生徒の主体性を伸ばすことは中学校でも取り組んでいる実践なので、参考にしていきたいです。
- ・タブレットの活用など学力向上のために様々な取り組みをされていてすばらしいと思います。
- ・朝課外がなくなることで対応が大変になるかと思いますが、ICTを活用した授業など、今後の取り組みに期待したいと思えます。
- ・ただ知識を吸収するだけでなく、その知識を深めていくということが重要であると感じます。受験のため、そこが最終ゴールになってしまっただけで学生時代に身に付けた知識が社会に出た時に何の役にも立っていないととてももったいないです。考えを深める時間は必要であると感じます。

【キャリア教育】

- ・「簿記」「情報処理」など熊本商業高校が得意分野とする部門を伸ばしていくことが、進学や就職に有利に働くのではないかと思います。
- ・進学校という印象を感じる進学率ですね。公務員に合格される方も多く、就職も手堅くご指導され良い学校と思えます。
- ・キャリア教育を推進は中学校においても大切な課題です。商業高校としての貴校の取り組みや課題が、中学校にも貴重な示唆を与えていただけると感じます。
- ・生徒の人生に関わる指導を丁寧に行っておられると感じました。内定率100%もすばらしいと思えます。
- ・大学進学、就職ととてもよい結果を残していらっしゃることに感心しました。これも学校長をリーダーとした教職員の方々の努力の成果だと感じました。
- ・それぞれの進路にあわせてのご支援ありがとうございました。また受験等に向けての指導も充分に対応して頂き、娘も自信をもって受験することができました。
- ・一企業の採用を担当している身として、「自分のことを知る」「社会のことを知る」ということがまだまだ不足しているように感じます。社会は今、今後はどうなっていて、それに対して自分は何ができるのか、何をしたいのかそれを身に付ける教育の必要性を感じます。

【生徒指導】

- ・時間厳守や規範意識の指導等(社会生活に必要な事)を高校まで続けてくださっている事を評価します。校門一礼一つにしても意識が必要ですね。
- ・SNS等の利用により、個人情報の流出や各種トラブルの発生が多発しており、今一度、保護者との連携強化を行うとともに、生徒さんへの継続した注意や喚起を行う。
- ・社会に出て生き抜いていく為の真摯な姿勢を教えておられ、それはとても大切だと思います。
- ・社会の価値観の変化や中学校での校則見直しの動きなど、これまでの生徒指導のあり方が問われている渦中の中学校としては、貴校の取り組みを見て、高校生活やその後の社会人としての在り様を考えながら一人一人の生徒と関わっていかねばならないと改めて感じました。
- ・携帯電話、自転車等様々な問題があると思いますが生徒一人一人にしっかりしたモラル・マナーを身につけるのがとても大切だと思います。
- ・本校においてもコロナの影響なのか・・・高学年の女子に心の不安を訴えたり、教室に入れなかったりする子どもさんがここ数年目立ってきました。対応も難しいと思いますが、よりよい方法があれば情報共有させていただけますと助かります。
- ・校門一礼やあいさつ等、これからも意識しながら取り組んでほしいと思います。家庭での声かけも必要だと思うので、育友会でも話していきたいと思えます。
- ・「熊商生としての自覚」とありますが、これはとても重要な視点だと思います。学校、会社、地域、いつでも人は何らかの組織に属しており、個人の行動がその組織のイメージを左右するという知識を持つことは、常に伝え続けていく必要があると感じます。

【人権教育の推進】

- ・「心のきずなを深める月間」を設けられていることを評価いたします。
- ・校門一礼など古き良き伝統として、後生まで続けてもらいたいと思います。
- ・高校生の時期に基本的な生き方を学ぶように思います。とても大切なので頑張ってください。
- ・人権教育の取組は、なかなか成果を実感できづらいことだと思います。人は心の中で誰でも少なからずネガティブな感情を内在させているからだだと思います。中学校でも様々な事例をとらえてしっかりと生徒と向き合い、温かい心や思いやりの心を育てていきたいと思います。
- ・当事者の体験談は生徒たちの心に響くと思います。これからも機会をたくさんつくってほしいと思います。
- ・人権については、当事者からの話を聞いたり、映像でみたりするのが一番心に響くのかなと思います。
- ・「生徒も教師も」という点が素晴らしいと感じます。こうした問題は世代間で認識の差があり、逆に学生の皆さんの方が敏感である可能性もありますので、先生方の学びを深めるということはぜひ継続して頂きたいと思えます。

【いじめの防止等】

- ・高校での「いじめ」とも思いましたが、社会全体での見守りが必要なのだと実感いたしました。
- ・休みがちな生徒に対しては、保護者と連携を密に取ることで、不安な気持ちを早期に把握し、いじめ等の諸問題から家族と学校が一体となって解決の道を探り、医療機関や事案によっては、警察への相談も必要である。
- ・SNSや見えにくいいじめなど大変だと思いますが、変わりゆく時代の中で課題は広がる心配を感じます。
- ・いじめの防止は、中学校においてもとても重要でまた難しい課題です。本校でもいじめが原因となって不登校状況となった事例もあります。なによりも、「いじめは絶対ゆるされない」ということを学校全体で様々な機会をととえて何度も何度も繰り返し学びあうことに取り組んでいきたいと思えます。
- ・いじめの問題について、スクールカウンセラーや専門家など多くの力を借りて取り組んでおられ、生徒一人一人にいていいにかかわってくださっていると感じました。
- ・いじめとは、また異なる話かもしれませんが、当社内でもハラスメントに関する研修を強化しているところですが、本人にそのつもりはなくても、受け取る側の感情が大事な問題なので、とにかく伝え続けていくことが大切なのだと思います。
- ・生徒への「言葉かけ」等対面でのコミュニケーションは重要かつ必要と思われる。
- ・小さな事から発生し、見えない場所で起こっている。情報を早く知ることが必要。

【地域連携】

- ・数年ぶりの熊商デパートの開催は良かったですね。
- ・地域との連携は、生徒が卒業してからの社会生活での融和に役立つと思えます。
- ・水前寺の町おこしにいろいろとお世話になっております。マーケティング部の新しい発想に期待します。
- ・学校運営協議会各部資料P43に記載してありますが、防災については今年度の努力目標を基本とし、成果と課題を踏まえた防災教育を継続していただきたい。また、具体的目標にもあります「避難所協力」において、県、市、地域自治会との連携をさらに深めてもらいたい。
- ・コロナの感染予防・感染拡大防止の状況の中での、地域連携の取り組みはなかなか難しかったことだと拝察します。中学校も、地域との連携にかかわる取り組みは、ほとんどできませんでした。
- ・コロナ禍でなかなか連携活動をしていくのがむずかしかったと思えます。これからも地域の中の学校としてあり続けてほしいと思えます。
- ・マーケティング部の話を聞いて、社会に開かれた教育課程の実現がなされていると感じました。また、その方法として商業高校の特色がいかに発揮されていることに興味がわきました。
- ・砂取小や神水幼稚園など近隣の子ども達との触れ合う機会が出来る双方の成長に良い影響がでると思えます。
- ・自分たちの地域のことを知る、ことはとても重要なことだと感じます。熊本県、熊本市の過去と現在と未来、(例えば人口の推移など)意外と学ぶ機会はありませんが、ビジネスにおいては必要な知識ですので、そうした教育があるといいのかなとも思えます。

【商業教育の充実】

- ・珠算部やワープロ部の成績はさすが商業高校ですね。自分に自信を持てる教育だと思います。素晴らしいですね。
- ・全国に名だたる熊商の伝統と誇りを感じることが出来ます。「熊商デパート」の取り組みが生徒の意見によって毎年アップデートされながらよりよい実践になっていることがよくわかりました。
- ・商業高校としての素晴らしい実績をつみ重ねておられると思えます。社会の変化に対応できる取り組みを期待します。
- ・将来の社会を支える人材をこれからも輩出できるようどうぞ宜しくお願い致します。
- ・熊商デパートに携わらせて頂きましたが、毎度学生の皆さんの積極性には感心するばかりです。商業高校ならではの取り組みであり、実務として非常に役に立つ取り組みだと思えますので、貴重な経験であり将来役に立つものだという意識を強くもち今後も頑張ってくださいと思えます。

【その他】

- ・熊商に関わるようになり社会の色々な分野で活躍できる人材を育成なさっている事を実感しています。
- ・部活動の成績の立派さに驚きました。この結果を出す努力の中に、人間形成をとまなっているのかと感じました。
- ・県立熊本商業高校は熊本市の指定緊急避難所(一時避難場所)でもあります。砂取校区は校区防災連絡協議会が設立されていますので、避難所運営委員会の設立に向けた取り組みにも御検討いただけたらと思います。
- ・2月17日の会の中でも申しましたが、本校に新任事務職員として今年度配置された貴校の卒業生が、今現場で立派な人材として頑張っていることが、貴校の教育力の確かな1つの成果だと思っています。
- ・リアル対面での協議会実施において他運営委員様のご意見により生徒、卒業生のお話をお聞きできて素直に嬉しかったです。校長先生の嬉しそうな顔もリアルだから拝見できること、さらに女性校長先生の優しい表情に安心感を感じました。校長先生を中心に熊本商業を元気ある高校へ、ご尽力ありがとうございました。
- ・学校に対しては学校全体で、生徒への愛を感じ一所懸命な様子が窺え、何も意見することはありません。
- ・不登校や学校への登校しぶりや生き辛さを感じている生徒がいるようですので、引き続きケアをお願いしたいです。
- ・自己肯定感の低さや自身のことに自信のない子どもをNPO活動にて支援を行っていますので、どうぞお繋ぎください。
- ・ボランティア活動において、自己肯定感の確実につながりますし、まずは家庭、学校以外に居場所を作ってあげてほしいです。
- ・母校において日々、愛情を持って真摯に生徒に向き合ってくださいている教職員の皆様に感謝申し上げます。
- ・6年間の娘達の在学中通わせていただきましたが、とても活気があり、気遣い等が普通に行える子ども達、学校でのご指導のおかげで、我が子達も人として成長させていただき、感謝しております。
- ・新聞を読む、ニュースを見る、本を読む、色んな人の話を聞くなど、社会人になって役立つ習慣を高校生のうちから身につける機会があるといいと思います。

5 総合評価

【学校経営】

学校の教育目標およびスローガンに基づく各部の取組みについて、教育目標達成に向けて計画的・組織的に実践しているという評価をいただいた。生徒、保護者のアンケートにおいても「よく実践されている」という回答をともに9割以上得た。今後さらに、ICT機器の活用を増やし業務の効率化を図ること、生徒と向き合う時間を確保し、きめ細かな指導に繋げていくことが大切である。

【学力向上】

タブレットやFORMSを活用した家庭学習時間を確保する取り組み、黙学による主体的に学ぶための意欲を高める取り組み、学期に1回の研究授業・公開授業への取り組み、FORMS等を活用した生徒による授業評価とその後の担当職員の工夫・改善が、学力の充実・授業内容の充実を図る取り組みとして評価をいただいた。本校におけるタブレットを活用した実践事例を教職員で共有し、生徒が主体的・協働的に取り組む授業を確立していくことが大切である。

【キャリア教育】

キャリア教育に対するしっかりとした理念と具体的なプログラム(高大・高専連携への取組等)による、生徒一人ひとりに対する丁寧な対応が成果に繋がっている。本校におけるキャリア教育をさらに充実・発展させるために、実社会と接続し、自己と関連付けられた課題が発見できる「総合的な探究の時間」を発展させることが必要である。

【生徒指導】

校門一礼や規範意識を高めるための様々な生徒指導への取り組み、不登校や問題行動の兆候を見逃さず初期段階で生徒指導部、学年部、教育相談部が連携して取り組む予防的指導が、熊商生としての自覚を持たせ、意識の高揚に繋がっている。特性を持つ多様な生徒が入学してきており、SCやSWなど関係機関と連携した、個に焦点を当てた問題解決の指導に対してさらに力を入れていかなければならない。

【地域連携】

熊商デパートにおける協賛事業所との連携、地域商店街の活性化への取組みなど、地域とともにある学校づくりが評価をいただいた。また、避難場所協力における熊本市と連携した取組みから、地域(砂取校区8町内)と連携した学校づくりを目指していかなければならない。

【商業教育の充実】

全商三種目1級取得や簿記・情報分野における高度資格取得の達成など専門的知識や技能の習得だけでなく、それを活用できる様々な実践的な場面の設定(熊商デパート・高大連携プログラム等)が工夫されている点を評価していただいた。GIGAスクール構想に対応するため、ICT機器の利活用に対する教職員のスキルアップが急務である。

6 次年度への課題・改善方策

【学校経営】

- 学校経営方針である生徒を「伸ばす」教育活動の実践を推進するために、生徒の学習面・生活面・進路面を現状分析することで課題を明確にし、取組の方向性を職員間で共通認識をさらに深める必要がある。
- 業務の効率化を図ることは、先生方が生徒と向き合う時間を確保することに繋がる。衛生委員会を通じて超過勤務の先生方をリストアップし、保健指導に繋げるなど勤務時間の削減をできるように工夫したが、大会直前の勤務時間の改善に課題が残った。校務分掌を見直すなど負担軽減を図りながら、働き方改革につながる業務改善を実施する。

【学力向上】

- 主体的・対話的で深い学びの視点から、ICT機器を活用したデータ駆動型の教育へと転換が迫られている。職員研修を通して一人ひとりがスキルアップし、授業内容の充実を図る必要がある。
- GIGAスクール構想に対応するICT機器は整備されたが、その活用に対する職員の格差は大きい。オンラインによる指導の充実を図るとともに、同時双方向型のオンライン指導に対応する必要がある。

【キャリア教育】

- 生徒の主体的・自発的な学びにつながるよう、総合的な探究の時間を1年生より導入した。熊商デパートと関連づけるとともにキャリア教育の視点を取り入れながら実施する。生徒一人ひとりが課題意識をもち、主体的な学びと将来の展望が具体的にできるよう工夫した取組を行う。
- 本校において3年間系統的・計画的な進路指導が実践できている。特に発達段階に応じた集団進路指導や進路先別の丁寧な指導が効果的であった。生徒一人ひとりの進路実現を支援するために、職員の面談力を高めることでさらに充実させ、主体的な学びに繋げる。

【生徒指導】

外面的・内面的生徒指導の取組は、熊商生として自覚をもった行動に繋がっている。しかし、SNSの活用、情報モラル、交通モラルについて一部の生徒に課題がある。全職員による時期を見た指導に加え、問題行動の早期把握に努め、学年、教育相談部、外部機関とのより一層の連携を図る必要がある。「命を大切に作る心」を育む指導プログラムへの取組を通して、安心・安全、健康・命を守る教育をより推進する。

【地域連携】

○STEAM教育の学習要素を取り入れた熊商デパート協賛事業所との連携など、地域とともにある学校づくりを継続して推進する。

○避難所運営について本校独自のマニュアルを作成し、熊本市と連携した取組を実施している。今後は、地域代表者(砂取校区8町内)にも参加していただき、マニュアルの情報共有と役割分担を確認するなど連携強化を図りたい。

【商業教育の充実】

○KSHの指定授業を受け、課題研究において、Webスタジオ等の活用、熊商デパートにおいて電子決済の導入について研究を進め、新しい販売実習方法について検討する。

○スキルアップを図る研修や研究授業への取組みは、一定の成果を上げている。今後は、GIGAスクール構想に対応する同時双方向型のオンライン指導ができるように推進する。また商業教育の拠点校として、本県商業教育が活性化できるよう引き続き役割を果たす。